

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドサポートさかい (放課後等デイサービス)		公表日 2024年9月25日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13		大人数が苦手、注意散漫で療育が進まない等の理由に合わせて別室へ移動、仕切りを使用しながら行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		医療ケアが多い利用者の日は看護師配置を多くしたり、児童指導員を増やすなど調整を行っている。	スタッフの急な体調不良が重なることも想定しながら人員を増やしていく必要があると考えている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	3	療育するスペースには子供がわかりやすいように写真や絵カードを作成し表示していく準備をしている。	一軒家のためバリアフリー化はまだ出来ていないが、少しずつ利用者や職員も増えてきているためこれから取り組んでいく予定。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13		営業時間終了後に毎日掃除を行っている。毎週木曜日の午前中は大掃除を行っている。	細かい埃や水回りの清掃を強化していくためにスタッフ全員が必要性を認識して自ら率先して環境の調整が行えるよう指導しなければならぬ。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13		個別の部屋を希望する子供（騒音が苦手等の理由）には別室へ移動、仕切りを利用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13		子供が利用されていない午前中に看護師や児童指導員など様々な職種のスタッフにて行っている。	看護師以外のスタッフは医療のことがわからないために勉強会をしながら今後業務改善をしていく予定。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		保護者アンケートの結果を基に、職員全員で会議を行い改善に努めている。	保護者会の要望も時々言われるが、感染リスクも考えて今後検討していきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		業務を効率よく行うために、職員同士でその都度話し合い、改善に努めている。	スタッフが個々に抱えている思いを訴えられる環境を整え、親睦会を定期的に実施していく予定である。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	13		審判や療育など現在行っている状況を評価していただき指導を受けている。	具体的に外部評価をしていただき、改善点はスタッフと話し合いをしていく予定。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13		重心の会での研修、法人内での研修には参加している（事業所内でも看護師が中心となりスタッフに向けた勉強会を行う計画）。	研修に参加できないスタッフに対して資料の共有や勉強会の実施をしていき、全スタッフが参加できるようにしていく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		児童発達支援管理責任者や児童指導員を中心に支援プログラムを発信し、一人一人に合った計画を作成している。	現在HP作成中。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13		保護者のニーズと子供の課題をすり合わせ、またスタッフ同士でも話し合いを行い作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13		主に児童発達支援管理責任者が計画作成したものを看護師、児童指導員など日ごろから子供に関わっているスタッフを交えて計画の見直しを行っている。	計画に基づいて現場でのスタッフ指導を強化していくことが必要。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		児童発達支援管理責任者のみならず、他のスタッフも交えて計画を作成し、個人の目標や支援内容を基に制作をしたり活動を行っている。	子供たちの目標を個々のファイルを作成しスタッフが常に意識できるように作成中。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	9		事業所内で決められたツールなどはまだできていない。情報は共有しているため今後具体的に作成へ取り組んでいく予定。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13		スタッフ全員で考え、計画した個別支援計画書を基に、個人に合わせた支援方法で目標に向かって取り組んでいる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13		利用する子供がいない午前中にスタッフで季節に合わせた制作や活動を考え立案している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	5	毎年行っているイベントや制作などを写真で記録し、かぶらないように工夫をしながら内容を考えている。	個別に活動内容を明確化できるよう話し合いができる時間を増やしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13		毎日子供の人数や体調などを見ながら個別活動や集団活動のイベントを組み合わせで行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13		ホワイトボードに一日の流れを記載し、その都度状況を見ながら一人ひとりの役割を確認しながら支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	5	翌日の流れの打ち合わせ及び、一日の振り返りを行い情報交換、共有を行っている。	シフト上切り上げて帰ることがほとんどなので、後日情報共有に参加するようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		「療育ノート」を作成し、一人一人のことに合わせて療育の行い方の調整を細かく記録し、職員間で共有している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		活動を行うたびに、個人の成長や得意なこと、苦手なことをモニタリングし、記録して次のチャレンジに活かせるよう考え、工夫している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	13		個人の目標に合わせて制作の難易度を変えたり、日常生活支援のサポート、休息時間の確保などを組み合わせ支援を行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13		絵カードや文字盤などを使い、コミュニケーションを取りながら子供自身に選択してもらう場面を増やしている。制作では色や方法を選択し「オリジナル性」を尊重している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		現場を把握している児童発達支援管理責任者、医療関係で心配な時は看護師を会議に参加させ、現に取り組んでいる療育や活動内容、体調なども含めて参画している。	子供に関わるスタッフも今後参加させていく予定。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13		子供体調に関しては保護者を通じて主治医へ相談すると共に福祉系にも適宜相談している。子供によってはMCSを活用しながら情報共有を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画、行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13		随時変更があれば連絡ができるようにしている。体調不良など気になることはすぐに保護者へ連絡。年間計画や行事に関しては保護者を通して情報共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	13		保育園への見学や園長、保育士と情報交換を行い、情報の共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	13		卒業を控えている子供に関しては卒業前から他事業所と連携し、保護者の意向を確認しながら最善の支援を受けられるよう取り組んでいる。	他事業所との連携をもっと強化していく予定。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	13		研修にはスタッフを積極的に参加させ、学ぶ時間を作るよう取り組んでいる。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		13		現在コロナや様々な感染もあるため積極的に参加していないが、状況を見ながら参加できるように努めている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		13		参加できるならば参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	13		送迎時にその日の子供の変化について保護者へ話をし、解決できることはスタッフと話し合いを行いながら保護者と情報共有している。	全スタッフが保護者と関わることができる時間を作っていく。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		13		子供の重症度やケアなどで参加できない場合もあるため、情報発信は行っているが実際に研修参加までには至っていない。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		契約時に細かく説明し同意を得ている。支援プログラムに関しては計画書を説明する際に再度説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		児童発達支援管理責任者を筆頭に適宜保護者と話をしながら、家族の意向や子供に求める支援などの内容を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13		個別支援計画書を作成後、自宅訪問または事業所へ来所していただき細かく説明している。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		送迎時など保護者と話す時間があれば日々悩んでいること、不安に思っていることを傾聴し解決できるように努めている。相談内容によって訪問が必要な場合は実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	9	保護者の相談内容によっては一部保護者会を開催することもある。スタッフに保護者が数名在籍している。	現在、各家庭の事情などにより実施できていないが、保護者同士のコミュニケーションや交流の場を計画中であるため実施していく予定。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		保護者からの訴えに関してはすぐに対応。内容をスタッフ間で共有し振り返りを行い、改善点を明らかにし保護者に説明をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13		毎月月初めにSNSで制作内容や活動、イベントなどを投稿している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		契約時に個人情報の同意を保護者にもらい、室内の名前表記、写真撮影など個人情報が漏れないよう留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		保護者の意思を否定せず、肯定しながら正しい意見を伝えるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		13		コロナ禍や様々な感染症があるため現在行えていないが、今後実施できるよう努めている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13		全保護者が事業所へ来所することができないため個別支援計画書を説明する際にマニュアルの説明を行っている。	利用日によって重症度が異なるため、マニュアルを見直ししながら訓練を実施していく予定。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		BCPは策定済み。	利用日によって重症度が異なるため、マニュアルを見直ししながら訓練を実施していく予定。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13		服薬内容、てんかん発作時の対応について把握している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13		アレルギー表を作成し情報共有している。エドバンを持参される子供への対応方法も周知している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13		安全計画は作成、個々に合わせた設備や環境整備につとめている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13		安全計画の内容については各保護者には伝達している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		個人の問題ではなく事業所内での問題としてスタッフ全員に共有し、改善すべき点、業務改善が必要な場合は話し合いを行い、再発防止に努めている。	話し合いだけで終わらず、その後も業務改善が継続されているかしっかり振り返りができる時間を作成していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		勉強会を開催し、内容について話し合いを行い、考えをまとめて書き留めている。虐待防止委員会を設置し、一部の保護者にも協力を得ている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13		身体拘束に関して説明を行い保護者からは同意を得ている。連絡帳には座位保持、バギーで固定した時間を記載。	今後計画書に具体的な内容を記載していく。	

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 チャイルドサポートさかい(放課後等デイサービス)

公表日 2024年9月25日

利用児童数 2024年9月25日

回収数 16

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 保 護 監 査	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16				広くてゆっくりできている。	
	2 雑音の記録数は適切であると思いますか。	16				常に子供に目がいく状態で良かった。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にされていると思いますか。	12	4			誰が見てもわかりやすく整備されている。	建物の構造上バリアフリーではないが、室内での工夫をスタッフと発注中である。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	16				室内ですべてできるようにしているので安心です。	
適 切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に合わせた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	2			職員の研修をすすめてきています。経験年数/少ないスタッフもいるので今後研修をすすめていくのを期待します。	
	6 事業所が必要としている支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16					
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が定期的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	16				子供と親の思いを聞いてくれて計画をまけてくれている。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	2			子供の体調不良があったり休む事が多かったためデイに参加することができなかった。	
	10 事業所の活動プログラムが個性化されていない工夫されていると思いますか。	13	3				
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	11			コロナ禍もあり、また感染に対して怖い気持ちもあり参加しにくいようにしてくれていると思う。	
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用費負担等について丁寧な説明がなされていますか。	16					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16				時間をかけて親の話を聞いてくれたり、説明してくれたりしている。	
	14 事業所では、療育に対して支援プログラム(ペアレント・トレーニング)や保護者も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	6				個別対策を行いながら状況を見て支援の機会を待っていることと聞いている。
	15 日頃からこどもの状況を把握者と話し合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	16				スタッフからも子供の状態を詳しく伝えてくれている。発病時の写真やメール、電話などで様子をお伝えしている。	
保 護 者 へ の 説 明 等	16 定期的に、親と子育てに関する助産の支援が行われていますか。	16				子供のことで悩んでいることが多いがその悩みを聞いてアドバイスしてくれる。	
	17 事業所の職員から共感的に返信がされていると思いますか。	16					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされているか。	10	6			参加できていない。	
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとすると、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか。	16				相談した時すぐに連絡をくれて対応してくれる。	
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16				特に子供の前で調整伝達をしないように配慮してくれている。	
	21 定期的に連絡やホームページ・SNS等で、活動計画や行事予定、連絡先等の情報や個別に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	13	3			SNSで活動や制作内容を見ている。	
	22 個人情報取り扱いに十分に留意されていると思いますか。	16					
	非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルが制定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16				計画の説明時にはマニュアルを見せてくれ説明してくれた。
24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要訓練が行われていますか。		14	2			実施している時に参加できなかった。	
25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。		16					
26 事故等(怪我等を含む)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。		16					
満 足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	16					
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	16					
	29 事業所の支援に満足していますか。	16				とてもよく思っています。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドサポートさかい		
○保護者評価実施期間	令和6年8月1日		～ 令和6年8月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年9月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2024年9月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療ケア児に対応できるように看護師が主となり、児童指導員始め、全スタッフへ情報を共有。 体調管理をしっかり行い、スタッフ全員で児童を観察できるような体制をとっている。	医療ケアと療育のバランスを保持するために、看護師が中心となり役割分担をしながら業務に専念している。	各専門分野だけでなく、個別支援計画書に沿った療育を事業所内で働いているスタッフ全体で取り組んでいく。
2	児童の重症度に関係なく、様々な医療ケア児を幅広く受け入れている。	看護師同士での意見交換、その他スタッフ全員に対して児童の情報共有を行うために、ノートを作成したり勉強会を行っている。	様々な医療ケアに対応できるように、事業所内での勉強会だけでなく、外部で開催している研修に参加したり、詳しい知識を学ぶために日々努力している。
3	スタッフの中に重症心身障害児の児童をもつ保護者が数名在籍している。	当事者だからこそ理解できること、実体験や様々な経験の中から得られた知識や情報を共有することができ、療育に活かすことができている。	スタッフとして又は保護者の観点から、利用者の保護者と関わっていくことで、新しい目線での意見や情報交換が共有できれば、共に共感し、お互いに影響を与えられることができるのではないかと考えている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内の使用できるスペースは多いが、有効的に活用できていない。	遊具やスペースの使い方が固定されてしまっている。	個別の活動範囲や希望に応じて運動できるスペースの確保、または隔離できる空間を作成し、児童の成長過程に合わせて個別に対応していく。
2	情報発信する方法が少ない。	連絡帳や利用日に様子を撮影して貼付している写真、送迎時口頭で保護者へ報告することしかできておらず、SNS等の情報発信を活用できていない。	保護者のニーズに合わせてSNS等のサービスを活用しながら情報発信していく。
3	重症心身障害児に対する経験年数が5年未満のスタッフが多い。	医療や福祉に詳しいスタッフは在籍しているが、他分野での経験者が多く、重症心身障害児との関わりが未経験のスタッフが大半を占めている。	事業所で経験を積みながら、様々な児童に対応できるよう、勉強会の参加や実施を行っていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドサポートさかい					公表日	2024年9月25日
		チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点		
			はい	いいえ				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13		大人数が苦手、注意散漫で療育が進まない等の理由に合わせて別室へ移動、仕切りを使用しながら行っている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		医療ケアが多い利用者の日は、看護師配置を多くしたり、児童指導員を増やすなど調整を行っている。	スタッフの急な体調不良が重なることも想定しながら人員を増やしていく必要があると考えている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	3	療育するスペースには子供がわかりやすいように写真や絵カードを作成し、表示していく準備をしている。	一軒家のためバリアフリー化はまだ出ていないが、少しずつ検討していく予定。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13		営業時間終了後に毎日掃除を行っている。毎週木曜日の午前中は大掃除を行っている。	細かい埃や水回りの清掃を強化していくためにスタッフ全員が必要性を認識して自ら率先して環境の調整が行なえるよう指導しなければならぬ。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13		個別の部屋を希望する児童（騒音が苦手等の理由）には別室へ移動、仕切りを利用している。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13		児童が利用されていない午前中に看護師や児童指導員など様々な職種スタッフにて行っている。	看護師以外のスタッフは医療の事がわからないために勉強会をしながら今後業務改善をしていく予定。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		保護者アンケートの結果を基に、スタッフ全員で会議を行い改善に努めている。	保護者会の要望も時々言われるが、感染リスクを考えて今後検討していきたい。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		業務を効率よく行うために、職員同士でその都度話し合い、改善に努めている。	スタッフが個々に抱えている思いを訴えられる環境を整え、親睦会を定期的実施していく予定。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	13		書類や療育など現在行っている状況の評価をいただき指導を受けている。	具体的に外部評価をしていただき、改善点はスタッフと話し合いをしていく予定。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13		単心の会での研修、法人内での研修には参加している(事業所内でも看護師が中心となりスタッフにむけた勉強会を行う計画)。	研修に参加できないスタッフに対して資料の共有や勉強会の実施をしていき、全スタッフが参加できるようにしていく。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		児童発達支援管理責任者や児童指導員を中心に支援プログラムを発信し、一人一人に合った計画を作成している。	現在HP作成中。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	13		保護者のニーズと子供の課題をすり合わせ、またスタッフ同士でも話し合いを行い作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13		主に児童発達支援管理責任者が計画作成したものを看護師、児童指導員など日ごろから子供に関わっているスタッフを交えて計画の見直しを行っている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		児童発達支援管理責任者のみならず、他のスタッフも交えて計画を作成し、個人の目標や支援内容を基に制作などの活動を行っている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	9		事業所内で決められたツールなどはまだ出ていない。情報は共有しているため今後具体的に作成へ取り組んでいく予定。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13		スタッフ全員で考え、計画した個別支援計画書を基に、個人に合わせた支援方法で目標に向かって取り組んでいる。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13		利用者がいない午前中にスタッフで季節に合わせた制作や活動を考えて立案している。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	5	毎年行っているイベントや制作などを写真で記録し、被らないように工夫をしながら内容を考えている。	個別に活動内容を明確化できるよう話し合いができる時間を増やしていく。		

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	13		毎日子供の人数や体調などを見ながら個別活動や集団活動のイベントを組み合わせで行っている。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13		ホワイトボードに一日の流れを記載し、その都度状況を見ながら一人ひとりの役割を確認しながら支援を行っている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	5	翌日の流れの打ち合わせ及び、一日の振り返りを行い情報交換、共有を行っている。	後日情報共有に参加し、行われた支援への振り返りを行う。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		療育ノートを作成し、一人一人のできることに合わせて療育の行い方の調整を細かく記録し、スタッフ間で共有している。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		活動を行うたびに、個人の成長や得意なこと、苦手なことをモニタリング、記録して次のチャレンジに活かせるよう考え、工夫している。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		児童発達支援管理責任者、医療関係で心配な時は看護師を会議に参加させ、現在取り組んでいる療育や活動内容、体調なども含めて発表している。	児童に関わるスタッフも今後参加させていく予定。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13		子供の体調に関しては保護者を通じて主治医へ相談すると共に病状にも運営相談し助言をもらっている。子供によってはMCSを活用しながら情報共有を行っている。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13		保育園と情報交換を行い、園・デイそれぞれの様子について情報共有しながら、並行利用を継続している。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13		保護者の意向を確認しながら最善の支援を受けられるよう、他事業所と連携しながら取り組んでいる。	他事業所との連携をもっと強化していく予定。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	13		研修にはスタッフを積極的に参加させ、学ぶ時間を作れるように取り組んでいる。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		13		現在コロナや様々な感染もあるため積極的に参加していないが、状況を見ながら参加できるように努めていく。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		送迎時にその日の子供の変化について、保護者へ話をし、解決できることはスタッフと話し合いを行いながら保護者と情報共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		13		子供の重症度やケアなどで参加できない場合もあるため、情報発信は行っているが、実際に研修参加までには至っていない。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		契約時に細かく説明し同意を得ている。支援プログラムに関しては計画書を説明する際に再度説明を行っている。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		児童発達支援管理責任者を中心に適宜保護者と話をしながら家族の意向や子供に求める支援などの内容を確認している。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	13		自宅訪問、来所どちらかを選択していただき、計画の説明後に同意をいただいている。	

関係機関や保護者との連携

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		相談があった時は話を聞いてアドバイスをすることもあり、相談後も問題ないか聴取することもある。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	9	保護者の相談内容によっては一部保護者会を開催することもある。スタッフに保護者が数名在籍している。	現在、各家庭の事情などにより実施できていないが、保護者同士のコミュニケーションや交流の場を計画中であるため実施していく予定。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		保護者からの訴えに対して即座に対応し、必要時訪問して問題を解決できるようつとめている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13		毎月月初めにSNSで制作内容や活動、イベントなどを投稿している。	SNS活用方法を見直ししていく予定。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		契約時に個人情報の同意を保護者にもらい、室内の名前表記、写真撮影など個人情報が漏れないように留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		保護者の意思を否定せず、肯定しながら正しい意見を伝えるようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		13		コロナ禍や様々な感染症があるため現在行えていないが、今後実施できるよう努めていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13		全保護者が事業所へ来所することができないため、個別支援計画書を説明する際にマニュアルの説明を行っている。	利用日によっては重症度が異なるため、マニュアルを見直ししながら訓練を実施していく予定。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		BCPは策定済み。	利用日によっては重症度が異なるため、マニュアルを見直しながら訓練を実施していく予定。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13		服薬内容、てんかん発作時の対応について把握している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13		アレルギー表を作成し情報共有している。エピペンを持参される子供への対応方法も周知している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13		安全計画は作詞、個々に合わせた設備や環境整備につとめている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13		安全計画の内容については各保護者に伝達している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		個人の問題ではなく事業所内での問題としてスタッフ会で共有し、改善すべき点、業務改善が必要な場合は話し合いを行い、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		勉強会を開催し、内容について話し合いを行い、考えをまとめて置き留めている。虐待防止委員会を設置し、一部の保護者にも協力を得ている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13		身体拘束に関して説明を行い、保護者からは同意を得ている。連絡帳には座位保持、パズルで固定した時間を記載。	今後計画書に具体的な内容を記載していく。	

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 チャイルドサポートさかい (児童発達支援)

公表日 2024年 9月 25日

利用児数 2024年 9月 25日

回収数 1

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	このものの移動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1				
	2	職員の数配置は適切であると思いますか。	1				
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達手段への配慮が適切になされていると思いますか。	1				バリアフリーではないが、子供に配慮した工夫をしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	1				
	5	このものごとを十分に理解し、このもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1				言葉の発達が進んだので子供に合った支援をしてあげていると感じている。
	6	事業所が実施している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1				
	7	このものごとを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が継続的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1				
	11	保護者や法定子ども風、幼稚園等との交流や、その他地域他のご子どもと接触する機会がありますか。				1	
適切な支援の提供	12	事業所を利用する際に、運営特色、支援プログラム、利用料負担等について丁寧な説明がありましたか。	1				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。	1				自宅へ来てくれて詳しく説明してくれた。
	14	事業所では、療育に対して専任支援プログラム(ペアレント・トレーニング)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。				1	療育のことを気にしているので自分から参加はしていない。
	15	医師から子どもの状態を保護者と伝え合い、子どもの障害や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	1				
	16	定期的に、園庭や子育てに関する助産師の支援が行われていますか。	1				困ったときに相談したらアドバイスをしてくれるので助かっている。
	17	事業所の職員から定期的に支援をされていると思いますか。	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、療育への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされているか。				1	
	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されていることと、子どもや保護者に対してどのような場があることについて、周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか。	1				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1				
	21	定期的に連絡やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡先等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1				日々の記録を連絡帳に写真も添付してつけている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、登高対応マニュアルが策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1				消防訓練も行くことがないので、計画を周知してくれた時にマニュアルと見せてもらった。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、資金の確保が十分に行われた上で実施が行われていると思いますか。	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかに対応や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。				1	利用してから事故やケガはない。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドサポートさかい		
○保護者評価実施期間	2024年8月1日		2024年8月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2024年9月1日		2024年9月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2024年9月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療ケア児に対応できるように看護師が主となり、児童指導員始め、全スタッフへ情報を共有。体調管理をしっかりと行い、スタッフ全員で児童を観察できるような体制をとっている。	医療ケアと療育のバランスを保持するために、看護師が中心となり、役割分担をしながら業務に専念している。	各専門分野だけでなく、個別支援計画書に沿った療育を全スタッフが把握し、実行できるよう引き続き取り組んでいく。
2	児童の重症度に関係なく、様々な医療ケア児を幅広く受け入れている。	看護師同士での意見交換、その他スタッフ全員に対して児童の情報共有を行うために、ノートを作成したり勉強会を行っている。	様々な医療ケアに対応できるよう、事業所内での勉強会だけでなく、外部で開催されている研修へ参加したり、詳しい知識を学ぶために日々努力している。
3	スタッフのなかに重症心身障害児の児童をもつ保護者が数名在籍している。	当事者だからこそ理解できること、実体験や様々な経験の中から得られた知識や情報を共有することができ、保護者の立場となり、気持ちを理解した絵で療育に活かすことができている。	スタッフとして又は保護者の観点から、利用者の保護者と関わっていくことで、新しい目線での意見や情報交換が共有できれば、共に共感し、お互いに影響を与えられることができるのではないかと考えている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事務所内の使用できるスペースは多いが、有効に活用できていない。	遊具やスペースの使い方が固定されてしまっている。	個別の活動範囲や希望に応じて運動できるスペースの確保、または隔離できる空間を作成し、児童の成長過程に合わせて個別に対応していく。
2	情報発信する方法が少ない。	連絡帳や利用日に様子を撮影して貼付している写真、送迎時口頭で保護者へ報告することしかできておらず、SNS等の情報発信を活用できていない。	保護者のニーズに合わせてSNS等のサービスを活用しながら情報発信していく。
3	重症心身障害児に対する経験年数が5年未満のスタッフが多い。	医療や福祉に詳しいスタッフは在籍しているが、他分野での経験者が多く、重症心身障害児との関わりが未経験のスタッフが大半を占めている。	事業所で経験を積みながら、様々な児童に対応できるよう、勉強会の参加や実施を行っていく。